

森村誠一の郷土・熊谷への思い

本日、学校生活が再開しました。皆さんは、この夏休みをどのように過ごしたのでしょうか。受験に向かう3年生はいうまでもなく、1、2年生も、計画的に夏休みの宿題や部活動等に取り組んだことでしょう。夏休みの成果は、これから始まる学校生活の中でよくあらわれてきます。引き続き、体力向上・学力向上に努めていきましょう。

1年生は、夏休み前の総合的な学習の時間で、一人一人が「熊谷をPRするためのテーマ」を決めたことと思います。例えば「ラグビーのワイルドナイツ」「うちわ祭」「雪くま」「別府沼に咲いている絶滅危惧種のキタミソウ」などなどのテーマが挙げられていたと聞いています。そのテーマにしたがって、夏休み中に現地調査を行い、調べたことをまとめておくことが宿題になっていたはずですが、しっかり取り組めたのでしょうか。

私自身も、1年生の皆さんと同じように、テーマを決めて調べたことがあります。私が調べたのは「作家・森村誠一さんの郷土・熊谷への思い」です。森村誠一さんは、夏休みが始まってすぐの7月24日、ご逝去されました。90歳でした。映画化されたベストセラー小説「人間の証明」「野生の証明」などで知られる大作家です。森村さんは、熊谷で生まれ、幼少期から青年期までの多感な時期を、皆さんと同じように熊谷で過ごしました。

私が調査に訪れたのは、熊谷駅南口の市立図書館3階の「森村誠一文芸の館」です。森村さんが寄贈した約2400作品・資料の他、森村さんが実際に使用していた椅子などを書斎風に展示しています。展示コーナーの1つに、「森村誠一作品に登場する熊谷」がありました。それをみると、多くの作品に熊谷の地名などが使われていることが分かります。実際にいくつかの登場場面を文章で読んでみました。情景がありありと浮かんできます。郷土・熊谷を大切にする思いが伝わってきます。また後日、森村さんのエッセイ集「遠い昨日、近い昔」を購入し、一読しました。森村さんは12歳の時に熊谷空襲を経験したのだそうです。焦土と化した熊谷の市街地に立ち尽くした森村少年は、戦争への怒りと平和への強い思いを胸に抱きます。それが全ての原点であったと、後に森村さんは綴っているのです。

2、3年生の総合的な学習の時間でも、熊谷市に関わる学習を行います。2年生は熊谷市をよりよくする提言を、3年生は「もし私が〇〇（例えば市長）だったら、熊谷市をこうする！」という宣言を具体的にすることを学習課題とします。2年生の授業（10月末）では、実際に、熊谷市の小林哲也市長さんが、母校であるこの三尻中学校に来校してくださることになっています。皆さんの提言を直接聞いてくださるのです。とても楽しみです。

4月に実施した全国学力・学習状況調査の生徒質問紙に「地域をよりよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問があります。その質問に対し、「そう思う」と回答した3年生は約30%でした。全国や県の平均は19%です。「ややそう思う」を含めれば本校生徒の大多数は「地域のために何かをしたい」と考えてくれているのです。

数学者の藤原正彦さんは「真の国際人になるのに重要なのは、自国のよき文化、伝統、情緒をきちんと身に付けることであり、郷土や祖国への誇りや愛情を抱くことである」と述べています。皆さんにとっての郷土は三尻であり、そして熊谷であります。皆さんは、将来、郷土・熊谷から大きく飛び立っていくのです。郷土・熊谷のことを、総合的な学習の時間を中心にしっかり学んで欲しいと願っています。今日から始まる前期後半は2ヶ月たらずの短い期間です。有意義なものにしていきましょう。